

形状を示し、中空小腔（直径約64mm）、ミトコンドリアおよび微細線維様物質（recept or matrix）を多数含んでいた。

4. これらの線維最終端部分は所々でシュワン細胞とのあいだにデスマゾーム様構造による結合を示した。またこれらの線維最終端部分は所々でシュワン細胞の被覆を欠き、周囲の弾性線維や膠原線維に対して直接に、あるいは基底層物質のみを介して間接に接触するのが認められた。同時にそのような部位の表面膜直下の軸索形質中には微細線維様物質が殆んど常に見出された。

以上の結果は、今回観察の対象とした有髄神経線維とその終末部が大動脈弓壁における機械力を受感するものであろうことを強く示唆するものと考えられる。

演題3 Benign Cementoblastoma と Benign Osteoblastoma との電顕像の比較について

・畠山 節子, 野田 三重子, 竹下 信義,
佐藤 方信, 鈴木 鍾美

岩手医科大学歯学部口腔病理学講座

Benign Cementoblastoma は顎骨に発生しセメント質様硬組織を形成する良性の歯性腫瘍であり、一方 Benign Osteoblastoma は脊椎骨および四肢骨に好発し骨および頬骨を形成する良性腫瘍である。どちらも顎骨腫瘍としては稀なものである。今回は下顎に発生した Benign Cementoblastoma と上顎に発生した Benign Osteoblastoma との電顕的観察を行い腫瘍細胞の比較を行ったので報告する。結果：1. どちらにも硬組織に接して形成細胞と吸収細胞、硬組織内に封入細胞、間質には紡錘形細胞が見られた。(Cementoblastoma の場合には Cementoblast-like cell, Cementoclast-like cell, Cementocyte-like cell, Osteoblastoma の場合には Osteoblast-like cell, Osteoclast-like cell, Osteocyte-like cell とした。) 2. Cementoblast-like cell は比較的明調で橢円形。ミトコンドリア、ゴルジ装置、粗面小胞体がよく発達していた。Osteoblast-like cells は暗調で紡錘形。ゴルジ装置、ミトコンドリア、粗面小胞体の発達がよく microvilli 様突起を持ち、しばしば粗面小胞体の著明な膨化が見られた。3. Cementoclast-like cells と Osteoclast-like cells は多数のミトコンドリア、大小種々の空胞、しばしば明きらかな ruffled border を

持ち両者ともほぼ同じ像を示した。また空胞内には PAM 染色陽性の細線維様物を含むこともあり吸収機能が示唆された。4. Cementocyte-like cells と Osteocyte-like cells は粗面小胞体ミトコンドリアなどを少量持っていた。セメント小腔の intralacunar space はほとんど見られなかったが、骨小腔内では広く、細粒物が散在していた。細管は両者に見られ Cementoblastoma の場合、細管の方向性は認められなかった。5. 紡錘形細胞はどちらの症例でも粗面小胞体、ミトコンドリアが比較的発達しているなどの点からそれぞれ硬組織形成細胞の未分化型と考えられた。6. Osteoblastoma には血管周辺に2型の小型細胞が存在し、1型は暗調で多数の突起を持ち、他の1型は大きな核と粗面小胞体を持つ橢円形細胞であったが両者の同定はできなかった。

座長 鈴木 鍾美

演題4 下顎部骨移植に関する実験的研究

—新鮮自家肋骨移植の透過型電子顕微鏡による観察—

・近江 啓一, 工藤 啓吾, 藤岡 幸雄

岩手医科大学歯学部口腔外科学第一講座

私達は、ラットの下顎部に新鮮自家肋骨を架橋的に移植し、移植骨の骨新生機序や移植骨骨細胞の運命について追求する目的で、これらに関する細胞群の微細構造を透過型電子顕微鏡により観察したので報告します。

実験方法は、雄性 ウイスター系ラットを用い移植後、経日的に屠殺後、2.5%グルタルアルデヒドおよび1.0%オスミウム酸により二重固定後、アルコール系列脱水を行ない、通法の如くエポン包埋し観察した。

観察結果では、移植骨骨細胞は、細胞内にライソゾーム様の分泌物が漸次増大し自己消化傾向をとり、変性壊死化する所見が得られた。また、移植骨骨髄は、1週目頃にて変性壊死化し、侵入した周囲結合組織の一部の線維芽細胞が骨芽細胞へと分化し骨形成を行なう事が強く示唆された。移植骨断端部付近の軟骨性化骨では、ラットの骨端軟骨の層形成に存在する線維芽細胞様細胞、軟骨芽細胞および軟骨細胞に類似する細胞が観察され、さらに軟骨細胞が退化しその小腔に周